



亀山 弘道 議員  
かめやま ひろみち

## 長期総合計画「学校教育の充実」について

- 問 子供・家庭・学校の課題は何か。もっと深く掘り下げる子供白書が必要ではないか。
- 答 データの収集、分析課題整理等の取りまとめ方にについて研究したい。
- 問 なぜ全体的相対的学力向上が最優先なのか。
- 答 一人一人の成長を視野に、市全体の教育水準の底上げを目指すため。
- 問 「各学校の平均が全國平均を上回る割合」という達成度指標は、個を大切にした指標とはいえないと思うがどうか。
- 答 個別の指導に取り組み、教育水準を全体として上げようとするもの。
- 問 こんな指標だから、大げに思ふがどうか。
- 答 この指標で目指すもうがどうか。



糸崎小学校授業風景

- のは、一人一人の状況に応じた指導で、全体の学力を向上させることだ。
- 問 指標を変えないと同じことを繰り返し、不登校・いじめなどの要因になると思うがどうか。
- 答 学力不振も要因の一につになると考えられるが、他の外部的要因も多い。
- 問 学力不振の子を救つてほしい。どう救うのか。
- 答 家庭と十分に連携をとり、子供たち一人一人の成長を支えていく。

- 問 行政の仕事は「誰でもが」「一人一人その気になつて」「子供に内在する力を発揮できるよう支援する」3視点への見直しをしてはどうか。
- 問 教育委員会は「学校観察」という方法より、教職員との対話を重視すべきだと思うがどうか。
- 答 今後の取り組みの参考にする。

- 問 早期に勉強嫌いをつくるないようにすべきだと思うがどうか。
- 答 拙速に結果を求める過ぎたり、学習内容が難しきなりつたりする場合もあることを認識した上で、指導を充実させていく。

## 駅前東館跡地への図書館や複合施設について



寺田 元子 議員  
てらだ もとこ

- 問 市長は駅前東館跡地に図書館を移転する考えだが、市民が断念に追い込んだ新庁舎駅前移転が図書館に変わっただけではないか。図書館でなぜ活性化するのかと市民は疑問視している。次の3点を問う。
- ①市民参画が欠如しているのではないか。
- ②ハード事業中心で天満屋や三原スープーが撤退し疲弊したのではないか。費やした事業費はいくらくらか。
- ③図書館移転の市民ニーズは低いのではないか。
- 答 ①市広報やホームページを通じて市民・関係団体等の意見を聴取し、まちづくり戦略検討会議で方向性をまとめたものである。
- ②市街地再開発は多くの雇用と消費が生まれ、活性化に貢献したと考えて
- 答 わかったと実感できることが主体的な学びにつながるという観点から、学力向上に努める。



駅前東館跡地

- ■ その他の質問事項
- コミュニティFMの開局にかかる現状と課題について
- 問 多くの市民は駅前に箱物はいらないと考えている。市長は希望的観測で市民を引っ張つてもいいのか。
- 答 民間事業者からはワンフロアだけ公共を入れてくれないかということだ。経済的・商業的に十分効果ができると思っていだと整理した。
- 問 市は、東館跡地へ民間で作つてほしい施設として健康増進施設や子育て施設をあげているが、すでに駅周辺にある施設ばかりではないか。また、本市が6年前に実施した市民アンケートでは、中心市街地に図書館がほしいとの声は19%といふ低さだった。
- 18億円もかけて図書館を移す財政的余裕も本市にはないはずだが。
- 答 駅前の民間単独開発は厳しい。



安藤志保議員

## 芸術文化センター・ポ・ポ・ロについて

問 ① ホール搬入口に人の出入り口を新たに設置するとともに遮音シャッターに取り替えるべきではないか。

② 芸術文化振興政策として、現状では長期総合計画元気創造プランの基本方針しかない。ホールの活用やホワイエの事業など実際の運用状況を担保する方針を明確にすべきではないか。

答 ① 消防庁舎移転にかかわっては、「これまで築き上げてきたポ・ポ・ロの評価、ステータスを一まとめに掲げて、評価は必ずしもなる」とともなるポ・ポ・ロの活用指針は必要と考へておる。

② 「有効な設備改善」の具体的な内容、



ステージ裏の搬入口【シャッターが閉まった状態】

問 ① 「新消防庁舎の供用開始時期を見据えて取り組む。② ポ・ポ・ロはこれまで利用者、来館者、演奏家等多くの方に支えていただけ、今後も三原の顔、誇りとして現状に満足することなく、挑戦、成長を続けていく必要がある。文化芸術活動の拠点施設としてのみならず、まちづくりの拠点施設としての活用も視野に入れて、ポ・ポ・ロの、そして我が家たちの魅力向上につなげたい。



倒壊した神社（本町）

答 本件は、平成24年から文書送付面談1回の指導をしてきたが、宗教的なものであるこ

答 中心市街地活性化の視点とともに、公共施設マネジメントの視点を持ち、検討を開始していく。今後、市民や議会に示していく。

答 ① 新消防庁舎の供用開始時期を見据えて取り組む。② 今後のポ・ポ・ロの活用をどう考へているか。

① 新消防庁舎の供用開始時期を見据えて取り組む。

② ポ・ポ・ロはこれまで利用者、来館者、演奏家等多くの方に支えていただけ、今後も三原の顔、誇りとして現状に満足することなく、挑戦、成長を続けていく必要がある。文化芸術活動の拠点施設としてのみならず、まちづくりの拠点施設としての活用も視野に入れて、ポ・ポ・ロの、そして我が家たちの魅力向上につなげたい。

問 ① みはら元気創造プランに示した基本方針と指定管理者が具体的に事業展開するためには、開拓するための計画をつながらべておる。

② みはら元気創造プランに示した基本方針と指定管理者が具体的に事業展開するためには、開拓するための計画をつながらべておる。

答 特に今回のケースにおいては、倒壊した神社の柱が隣家に寄りかかる状態であり、市の対応として、市民の生命と財産を守るという視点が不足していると思うが、対応について問う。

答 本件は、平成4回、電話4回、面談1回の指導をしてきたが、宗教的なものであるこ

答 庁舎建設及び駅前東館の課題について、一定の指向性がでたが、駅前西館が空洞化することは、確実である。市は公共施設マネジメントも考慮しながら、どのように対処するか議論を始めるべきでないか。また、市は建物の60%弱の地権者である。

答 中心市街地活性化の視点とともに、公共施設マネジメントの視点を持ち、検討を開始していく。今後、市民や議会に示していく。



正田洋一議員

## 本町の倒壊した空き家の対応について

問 本町の神社が倒壊した。以前から危険性を感じ、町内会、市では所有者との対応に取り組んできたが、応じてもらえない。そのため、町内会は、市へ助言、指導ではなく、より強い勧告、命令の段階へ進み、除外の対応を促してほしいと要望したが、難しいとの見解だった。

答 担当課から、倒壊建物について対応するとの連絡をもらつた。しか

問 駅前西館空床対策の議論はいつから

答 庁舎建設及び駅前東館の課題について、一定の指向性がでたが、駅前西館が空洞化することは、確実である。市は公共施設マネジメントも考慮しながら、どのように対処するか議論を始めるべきでないか。また、市は建物の60%弱の地権者である。

答 中心市街地活性化の視点とともに、公共施設マネジメントの視点を持ち、検討を開始していく。今後、市民や議会に示していく。

し、進展しない場合どうするのか。また、建物が、倒壊するまで所有者へ通告、命令をしないというのではなく、仕事の進め方として間違っていないか。

答 今回の法の枠組みの中で、行える助言、指導を行ってきたが、今後については、建物所有者と定期的に連絡をとり、措置の実行を注視する。所有者が対処しない場合、勧告等の手続きを進め、指導を強化する。

し、進展しない場合どうするのか。また、建物が、倒壊するまで所有者へ通告、命令をしないというのではなく、仕事の進め方として間違っていないか。

答 今回の法の枠組みの中で、行える助言、指導を行ってきたが、今後については、建物所有者と定期的に連絡をとり、措置の実行を注視する。所有者が対処しない場合、勧告等の手続きを進め、指導を強化する。

問　観光の発展のためのインフラ整備をどのように考えているか。

答　観光客を誘致するためのインフラ整備について、観光案内標識の設置（15カ所）が完了している。

港湾ビル東側から駅前広場に移設したやつさ踊り像や、来年春に供用開始を予定している竜王みはらしライン（林道久和喜竜王線）を今後観光誘客に活用していく。

問　観光戦略に沿った都市計画、中心市街地活性化基本計画と、観光戦略プランをどうリンクさせるか。

答　観光戦略プランにおいてやつさ踊りは、重要な観光資源であると示しており、関係部署と連携し、都市の中にやつさ踊りを活用した取り組みも行つてい



# 政平智春議員

1万個の提灯でやつさの盛り上げを

今後、JRや広島空港、  
関係機関との連携を十分  
に図り、やっさ祭りや築  
城450年事業の観光誘  
客の推進に取り組む。

問　観光の発展のためのインフラ整備をどのように考えて いるか。

港湾ビル東側から駅前広場に移設したやつさ踊り像や、来年春に供用開始を予定している竜王みはらしライン（林道久和喜竜王線）を今後観光誘客に活用していく。



## やつさ踊り

る。また、中心市街地活性化基本計画では、やつさ祭りや築城450年事業、「三原食」のブランド化推進事業が経済活力向上事業として認定されている。

**問** 今年4月、馳文部科学大臣が言った、「過去の問題を解かせるのは本末転倒」という発言をどう受け止めるか。

**答** 馳元大臣の見解は、点数至上主義から、過去の問題を解く対策に時間を割き、日常の授業が軽視されているとしたら許せないととの思いと受け止める。学力調査の目的は点数の競争ではなく、子供たちの学力の実態を捉え、それを踏まえた指導の充実や授業改善を図り、子供たちの学力の定着・向上を図ることだ。

今後も全国学力・学習状況調査を適切に活用するなど、子供たち一人一人の実態を踏まえ、それの進路実現につながる学力の定着、向上に努めていく。

## 母子生活支援施設入所への広報の あり方について

二二二  
圖書之類

## 暫定定員について

問 定員を入所世帯が一  
きく下回る状況が改善さ  
れなければ、施設の運営

れなければ施設の運営が成り立たなくなる恐れがある。措置権を持たない

困難が予想される暫定性員への対応を、どのように

員への文句をどのよ  
に考え、取り組まる  
か問う。

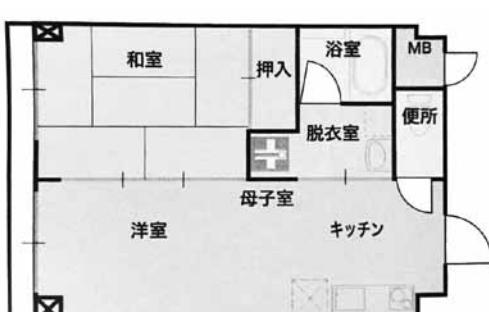
市としては、母子家庭の生活支援と自立促進のため、母子生活支援

のため、母生産技術は、今後も必要な施設と考へてある。安定的と

支援の提供と事業継続の支障となるような暫定性員が設定されないよう

に、施設に対する広い知識への取り組みを展開

し、母子生活支援施設が必要とされる方に積極的に入居を案内し、利用を促進を図っていく。



部屋の間取り図



児玉敬三議員

も、他の福祉等関係機関、団体との情報共有など、連携強化も含め、よりゆる場所と機会をえ、積極的な広報を展開し、利用の促進を図り、母子家庭の保護と支援を

## 市道の管理について



岡おか  
富雄とみお  
議員

問 現在市道の管理などは、主に地域住民で対処しているが、年々高齢化、人口減で対処が難しくなっている。

また、災害の原因になることもある泥・落葉などが堆積し埋まっている側溝の管理について、今後の本市の対応を問う。現在多くの区間について、地域住民ボランティアの協力を得て草刈りなどを行っているが、人口減・高齢化で支障を来している状況も認識している。課題が生じている案件については、地元関係者と協議し予算を踏まえながら、市において対処したいと考えてい

## 三原北部地域の活性化 と観光施策について

答 三原北部の観光資源などの情報発信としては、それぞれの資源を活用し誘客促進を図るため、情報誌を活用したプロモーション事業やパンフレット・周遊マップの配布、観光案内看板の整備を行っている。今後は、道の駅よがんす白竜を情報拠点として、平成27年度に整

また、新しく移転する  
予定の久井歴史民俗資料  
館・久井公民館を情報収  
集や休息場所として、簡  
易な道の駅のような施設  
として利用することはで  
きないかと思う。

A black and white photograph showing a range of mountains in the background, with a power line crossing the frame in the foreground. The mountains are layered, with some peaks appearing to have snow or ice. The sky is overcast.

### 宇根山頂上より瀬戸内海・四国を望む

備した映像用プロジェクターなどを活かし、交通情報の提供・各施設や周遊ドライブコースなどの紹介を行い、全体の連携を図っていく。

また、久井歴史民俗資料館・久井公民館については、新しい施設は久井地域の観光資源の情報発信機能を附加することで、地域振興の活性化につながる施設として活用し、トイレの使用や地域交流などが集い学ぶことができる新しい拠点として整備する計画。完成後は関係部署と連携を図りながら、施設の有効利用を図る。

**ふる里教育について**

問 今日、日本全体の人口が細る時代を迎えるに伴い、新しい地域社会を築き上げるには、特に幼少年期から郷土への愛着心を育てることが大切である。

地域には歴史や文化・伝統芸能、山や川の豊かな自然環境、更に特産物の栽培などふる里教育の学習材料はたくさんある。これらの資源を使っての学習は、郷土への愛着心を育むことができ、進学や就職でいったんある里を離れてもいつか戻つて来て、ふる里のため頑張ってくれるのではないかと思う。

そこでお尋ねするが、本市のふる里教育の現状と今後の取り組みはどうか。

答 本市では中学校の設置ミッションとして、「社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成」と定めている。そのため

発達段階に応じて、計画に基づいて学習を進めている。地域の環境や歴史、伝統的な産業などについて、学校外の人々から聞き取りを行ったり、現地に赴き実地調査を行う取り組み。こういった取り組みを通して、子供たちが様々な地域の人々と交流し、ふれあ

大切な子供の育成が  
重要である。

## 小学校でのふる里教育

う機会を持つことは、地域や学校が一体となつて子供を育てる土壤づくりとなるとともに、子供たちに郷土愛を育成し、将来の本市の担い手となる人材を育てることにつながると考える。

平成29年に展開される瀬戸内三原築城450年事業は、ふる里教育を拡充させる好機である。

現在、「小早川隆景ものがたり」のDVDを学習用に編集し、来年度には市内の小中学校に配布する。また、小学校3年生から6年生を対象に「ふるさと子ども博士講座」も継続して開設する。

## ふる里教育について



# 仁ノ岡範之議

う機会を持つことは、地域や学校が一体となつて子供を育てる土壤づくりとなるとともに、子供たちに郷土愛を育成し、将来の本市の担い手となる人材を育てることにつながると考える。